

令和4年度

要員の活動紹介

要員とは、関係部署が必要と認め、卒業後長く部署の御用を務める者で、以下のものがある。

扶育出願に当たっては、志願要項及びこの活動紹介をよく読んで参考としてもらいたい。

- 1、海外伝道要員 ----- 在学中から海外部の指導を受け、卒業後は海外部長の指示に従い、5年以上勤務する者。
- 2、広報伝道要員 ----- 在学中から道友社の指導を受け、卒業後は道友社長の指示に従い、5年以上勤務する者。
- 3、縦の伝道要員 ----- 在学中から少年会の指導を受け、卒業後は少年会本部委員長の指示に従い、3年以上勤務し、その後、教会の御用を務める者。
- 4、本部各部署要員 ----- 在学中から本部各部署（電算課・社会福祉課・建築課）の指導を受け、卒業後は当該部署長の指示に従い、5年以上勤務する者。

※要員とは、教会本部の部署が将来的に必要とする人材を養成するためのものであるから、要員を志願する者は、その自覚のもと、勉学に専念するとともに、担当部署でのひのきしんに励むこと（成績の状況、或いはひのきしんの参加状況によっては要員を取り消すこともある）。

※要員出願者の寄宿先は、〈大学寮、詰所、自宅〉のいずれかが望ましい。

海外伝道要員

All People in the World are Brothers and Sisters

“世界一れつ皆兄弟姉妹”

教祖は、ある時、梶本ひさに向かって、
「一度船遊びしてみたいなあ。わしが船遊びしたら、二年でも三年でも、帰られぬやろうなあ。」と、仰せられた。海の外までも親神様の思召しの弘まる日を見抜き見通されてのお言葉と伝えられる。 『稿本天理教教祖伝逸話篇』168 船遊びより

天理教の海外布教は韓国伝道を皮切りに約120年の歴史を数え、近隣アジア諸国はもとより、遠く欧州や北・南米、更にはアフリカ大陸など、教えは80以上の国や地域に広がっています。海外ようぼく数は累積で約5万名以上、海外教会数は実に300カ所以上に上ります。「世界一れつたすげたい」と親神様は仰せになっており、世界人類は等しく親神様の教えを学ぶ事ができます。海外部の使命とは世界中の兄弟姉妹にこの教えを伝える事に他ならず、陽気ぐらしの実現こそ世界人類共通の目的なのです。

해외부의 사명과 역할
“海外部の使命と役割”

海外部では翻訳・通訳をはじめ、外国語による修養科、教人資格講習会、基礎講座での教義講習、海外団体の受入れ・お世話取り、海外教会子弟を対象としたおやさと練成会の開催など、海外伝道をサポートする一方で、世界十数カ所に置かれている拠点に部員を派遣するなど、直接的にも海外布教に携わっています。

また日本語で直接に教義を理解したいという外国人教友に対しては、海外部の運営する天理教語学院、或いは海外拠点が運営する日本語学校などで日本語の指導も行っており、日本語教育を通して社会との窓口を構築し、海外布教の足掛かりとしています。

Recursos humanos: como é importante desenvolvê-los

“人材育成の重要性”

長年にわたって続けられてきた海外伝道は、多くの先輩たちによって支えられてきましたが、「世界一れつ」をたすけるためには、これからも更に陽気ぐらしの教えを世界中へ伝え広めていかなければなりません。そのためにはより多くの人材が必要であることは言うまでもありません。

海外伝道に求められる資質は、「外国語ができるおたすけ人」へと成人することであり、信仰心を養い、文化を異にする人々を理解し、習得した言語によって道を伝えられるようになることです。海外部ではこの“人材育成”を重視し、部員の意識向上と共に、国内外の若者に資質向上の機会を提供しています。



海外教友に教えについて説明する海外伝道要員

何謂海外傳道要員

“海外伝道要員とは”

海外伝道要員とは、卒業後海外部に入部予定の学生、言わば入部前研修生です。海外部ではその資質を高めるために様々な学習の場を設けています。

第一には、「海外伝道支援プログラム」という外国語のレッスンがあります。要員には大学での学習に加えてこのレッスンを受け、海外部員の指導のもと専攻言語（日本語教育を含む）を強化していただきます。第二に、各要員には海外部員カウンセラーが1名つき、信仰面、生活面などをサポートします。第三に、「要員デー」を設け、要員同士が定期的に交流し学び合う場を提供しています。

また、海外部が指導する自主活動サークル「SATOM」に入会していただきます。「SATOM」はStudents Association for Tenrikyo Overseas Missionの略で、「海外伝道を志す学生の集まり」という意味です。その活動の趣旨は「本教の海外伝道を志す上で、諸活動を通して学生が相互に磨き合うこと」であり、海外伝道要員以外の大学生を含め、現在約100名の学生が在籍しています。SATOMの行事は学生自身が企画・運営するもので、様々な言語を学ぶ学生がお互いに刺激をし合い、大変充実した学業生活を送っています。

学んだ語学を活かしてお道の御用ができる。それが海外伝道要員です。

令和4年度募集言語

海外部では令和4年度、以下の言語の習得を目指す要員を募集します。大学で履修できない言語についても出来る限り対応させていただきますのでご相談ください。

・欧米・中南米・アフリカ地域言語：

英語、ポルトガル語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、イタリア語

・アジア地域言語：

中国語、韓国語、タイ語、インドネシア語、モンゴル語、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語、ヒンディ語、カンボジア語、ミャンマー語

・日本語教員

広報伝道要員



広報伝道要員とは

広報伝道要員制度は昭和51年、お道の広報活動のさらなる充実を図って発足しました。

広報伝道要員は、候補生としての一定期間を経て要員となります。要員および候補生は、学生の本分である学業を修めることはもとより、普段から国内外のニュースにふれたり、関心のある物事を突き詰めたりすることで見聞を広めるとともに、自身の感性を磨く姿勢が求められます。

大学卒業後は道友社に5年以上勤務し、『天理時報』『みちのとも』などの編集・出版、映像・写真の撮影やラジオ番組の制作などの業務に従事します。

お道の広報活動と道友社

お道の広報活動は、明治24年に月刊機関誌『みちのとも』が創刊したことに始まります。その発行所として設けられたのが天理教道友社です。

昭和5年、天理図書館の開館に当たり『天理時報』が誕生しました。やがて道友社に編集部が置かれ、『みちのとも』と『天理時報』を柱に文書伝道が推し進められます。

映像は大正4年の初代真柱様のご葬儀をフィルムに記録したことを、放送は二代真柱様がラジオ（NHK大阪放送局）に出演されたことをそれぞれ端緒とします。

道友社では現在、出版物、インターネット、放送、視聴覚製品などを通じて、本教の広報伝道部門としての活動を多角的に進めています。

○編集出版課

『天理時報』『みちのとも』などの定期刊行物をはじめ、書籍やチラシなどの印刷物を制作しています。企画、取材、編集、レイアウトなどを、それぞれの担当に分かれて行っています。

近年、新たに「Webチーム」が設置され、「天理教ホームページ」「道友社ホームページ」「道友社フェイスブック」「教区・支部情報ねっと」など、Webコンテンツ全般を管理・運営しています。

○音声映像課

音声・映像による取材と記録保存、ラジオ番組の制作、インターネットでの動画配信のほか、CD・DVDといった視聴覚媒体を制作しています。

○業務課

定期刊行物の販売・発送をはじめ、道友社で制作された出版物を取り扱う会社や書店などとの折衝を行います。また、お道の書籍の販売所として、天理本通り商店街に「おやさと書店」「Books道友」を、東京教務支庁内に「東京支社」を、さらにインターネット上に「道友社Webストア」を置いています。

装飾係（アトリエ）では、主に親里管内で行われる諸行事の看板・装飾物などを制作しています。

研修内容

「広報伝道要員」と聞けば、文章が上手で、センスがなければならぬと思いがちですが、必ずしもそうではありません。誰もが将来の「陽気ぐらしの情報発信基地」のスタッフの一員となれるよう、道友社のスタッフが研修を通してサポートしていきます。

月1回の要員研修会では、陽気ぐらしの教えを身に付けるために教理を学び深める講座や、広報伝道のうえに必要な知識やノウハウの基礎を身に付けるためのプログラムを行い、また記事や文章に親しめるような課題にも取り組みます。入社後はもちろん、大学でのレポートや卒業論文にも役立つ内容です。

道友社の設立趣旨は「教内に教祖の教えを行き渡らせ、人々に修理丹精を行き届かせて、心の糧、すなわち陽気ぐらしの喜びを与えよう」というものです。

教内はもとより、世界中に陽気ぐらしの喜びを広げるために、文書伝道は有効な手段です。そして、その担い手の育成は、お道の進展のためには欠かすことのできない、また途切れさせてはいけないものです。

この広報伝道という大切な役目を担ってくれる人を一人でも多く待ち望んでいます。

縦の伝道要員



こどもおぢばがえり本期間



夏休みさんさいの里キャンプファイアー



教会おとまり会



少年会本部事務局

縦の伝道要員とは

お道の信仰者にとって、自ら教理を実践し、心の成人に励むと共に、広い世界に教えを広める「横の布教」は大切な使命です。と同時に、親から子、子から孫へと親自身の信仰の喜びを伝えていく「縦の伝道」があってこそ、親神様が思召し下さる陽気ぐらしへと近づくことができるのです。

ですから、「縦の伝道」は「横の布教」と同じく大切なことであると言えるでしょう。

縦の伝道要員は、候補生としての期間を経てから、要員となります。そして、卒業後には、少年会本部事務局員として3年間勤めることとなります。その間、自らが信仰の喜びを深め、心の成人に励むと共に、縦の伝道や少年会活動の理念、更には、教祖の教えやひながたを子供たちへどう伝えるかを学びます。また、子供たちの心を開き、豊かな心を育てるための様々な実技やその指導法などの習得に励みます。

活動内容

○ 年間の活動

4月に要員、要員候補生に対してオリエンテーションを行い、年間を通して行事の受講、またスタッフとして少年会本部部員、研修員と共につとめながら縦の伝道の学びを深めます。

特に6月～8月は、「こどもおぢばがえり」の準備ひのきしん、本期間のスタッフをつとめます。9月からは管内学校の行事スタッフを1回（希望者は数回）つとめながら、教会おとまり会や教会こども会の企画、教理の伝え方、実技などを学びます。

そして、年が明けると候補生は、2月に行われる少年会本部主催の「少年会実技研修会」への受講、要員はこれまでのスタッフ実習、講習会・研修会受講の集大成として教会おとまり会や教会こども会のスタッフとして教会に出向きます。

※9月以降、行事のスタッフにかえて週1回（1時間）の例会を持つ年もあります。

○ 「こどもおぢばがえり」に向けて（6月～8月の活動）

5月26日からは、「こどもおぢばがえり準備期間」として、行事受付係のコンピューター打ち込み作業や行事会場の装飾看板・舞台の大道具・小道具などの製作を数日間（5日程度希望日）お手伝いいただきます。

本期間は、こどもおぢばがえり事務局や少年ひのきしん隊係、行事受付係、行事、隊の引率などで裏方を中心としたスタッフをつとめます。

○ 行事スタッフ及び受講（年間を通して）

5月3日～5日 「ピッキーひろば」スタッフ（いずれか1日）

6月中旬 「天理大学育成講習会」スタッフ及び受講（1泊2日）

8月10日～24日 「夏休みさんさいの里キャンプ」スタッフ
（いずれかの2泊3日）

8月末～11月末 「管内学校の講習会」スタッフ1回
（1泊2日か2泊3日）

2月27日 「少年会実技研修会」受講（要員候補生のみ）

○ その他

少年会本部事務局が行う、にをいがけ、神名流しや路傍講演、十三峠越えなどの活動に参加することもあります。

要員への期待

天理教少年会では、教会や地域などにおけるグループ活動を通して、15歳までの少年会員が教えを学び、ひのきしんに励み、互いにたすけあって、ご存命の教祖にお喜びいただける立派なようばくに育て上げることを目的としています。

今まで多くの方が「縦の伝道要員」となり、少年会本部での勤務を終えた後は、それぞれの地方に戻り、家庭において、また教会や地域において少年会活動に取り組み、立派なようばくを育てる一翼を担っています。

「縦の伝道要員」として縦の伝道や少年会活動を学び、将来教会や地域で少年会活動の中心となって活躍する人が一人でも多く育つことを期待しています。

本部各部署要員

本部各部署要員とは

本部各部署要員は、海外部・道友社・少年会を除く教会本部の部署において、5年以上勤務することを希望する者を対象とした要員制度です。

教会本部には様々な部署があり、それぞれ大切な道の御用を担っています。一れつ会では、扶育生は卒業後、お道の御用に就くよう指導していますが、学生生活を通じて学び得た知識や特技などを活かし、おちばで御用を勤めることができるのが「本部各部署要員」です。

本部各部署要員希望者は、入学後、要員候補者として

それぞれが希望する各部署において2年間研修を行います。2年間の候補期間を経て、成績や部署の意見等も参考の上、3年生の始めには正式に要員として決定します。

募集部署

令和4年度募集の部署は、次の通りです。

- ◎ 電算課 (表統領室)
- ◎ 社会福祉課 (布教部)
- ◎ 建築課 (営繕部)

◎ 電算課 (表統領室)

○電算課の役割

電算課は、昭和61年に本部並びに関係施設の電算化推進を目的として発足し、以来30年以上、本部や関係施設の基幹業務システムの開発・構築・運用・保守に従事してきました。近年、IT技術が進歩し続ける中で、教内各部署の業務においてもIT化が進んでおり、それに伴い、電算課が担う役割もどんどんと増えています。



○電算課の業務

現在はシステム開発・運用、ネットワーク管理、ハードウェア・ソフトウェア等の管理や運用、サーバの運用や保守、セキュリティ対策など情報技術に関わる様々な業務を行っています。その中でも主たる業務はシステム開発です。各部署からの依頼に基づき、2～3人程のチームを組んでシステム開発を行います。その他の業務は担当を割り振り、運用・保守・管理にあたっています。

○求める人材

おちばで伏せ込ませていただく、また、親神様・教祖の御用をさせていただく喜びを第一に心に置き、電算課の業務に必要な技術や知識の習得を目指し、自ら進んで努力できる人を望みます。

電算課の業務は多岐に渡るため、新人研修プログラムを受けていただきます。基礎知識はそこで勉強しますので、コンピュータが得意である必要はありません。しかし、自主性、協調性は業務を行う中で必要となります。各部署の業務が円滑に行われるよう、縁の下の力持ちとして、私たちと一緒に頑張ってください。

◎ 社会福祉課 (布教部)

○本教の社会福祉

親神様は、私たち人間が陽気ぐらしをする姿を見て共に楽しみたいとの思召から、人間を創られました。従って本教では、人間が互い立て合い、たすけ合いをして、神人和楽の陽気ぐらし世界を実現することが、私たちの生きる目的である、と教えられています。

こうした教えのもと、天理教は早くから社会福祉活動に取り組んできました。その始まりは、明治43年の天理教養徳院(児童養護施設)開設です。開設に当たり、初

代真柱様は「人の子も我子もおなしこゝろもて おふしたて、よこのみちの人」(人の子も我が子も同じ心をもって、養い育てあげてほしい、この道を歩む人々よ)という歌をお詠みになりました。このお歌は、本教社会福祉活動の根本指針となっています。

○社会福祉課要員とは

社会福祉課では、様々な社会福祉資源(施設や機関、法制度など)を活用したおたすけを実践する、福祉ようほくの養成を行います。

障害のある方やそのご家族に寄り添い、そうした方々に教祖の教えを通じて生きる喜びを味わっていただくために、要員には、「ひのきしんスクール各講座」「手話通訳、点訳、音訳の各ひのきしん者養成講習会」「身障者（参拝者）の誘導・介助ひのきしん」といった各種講座・講習会やひのきしんを通して、現場で必要となる知識や技術を習得していただきます。

また、当課では、要員が互いに信仰を深め、ようぼくとして共に社会福祉活動を進めてもらえるよう支援を行います。



社会福祉課所管 各部門一覧

天理教点字文庫
 天理教点字研究室、音訳研究室、手話研究室
 天理教社会福祉施設連盟
 天理教教諭師連盟
 天理教保護司連盟
 天理教民生・児童委員連盟
 天理教障害者協議会（視力、聴力、肢体他）
 天理教里親連盟
 天理教ハンセン病療養所協議会
 天理教保育士育成委員会（白梅寮）
 天理教献血推進委員会
 天理教社会福祉研究会
 天理教酒害相談室
 ひのきしんスクール運営委員会

◎ 建築課（宮繕部）

○ 建築課要員とは

卒業後に建築課で勤務予定の学生のことで、候補生としての一定期間を経て要員となります。要員および候補生は、在学中に建築課の研修に参加、そして大学卒業後には建築課で5年以上勤務し、おやさと整備の最前線で活躍していただきます。

○ 建築課の仕事について

私たちの仕事に一人でできるものはありません。

建築課ではすべての仕事にチームで取り組みます。年齢・経験・立場が異なる勤務者同士がチームを組み、各々が持てる力を最大限に発揮することで建築の品質を上げ、お帰り下さる信者の皆様に喜んでいただける建築やおやさとの整備を目指します。

主な仕事は以下の通りです。

- ・ 神殿・礼拝場・おやさとやかたをはじめとする教内各施設の建築・土木に関する調査、企画、設計、監理等を行います。
- ・ 法律に定められた約200に上る本部施設（詰所、学校関連施設、天理よろづ相談所関連施設等）の定期調査・検査を行い、奈良県へ報告します。
- ・ 各施設の敷地・土地の測量及び測量図作成を行います。

現在（令和3年4月）、建築課には一級建築士8名、一級土木施工管理技士1名が在籍しています。

